

舞楽 タブレットコンテンツ

次のパフォーマンス：舞楽という宮廷舞踊

蘭陵王

舞楽は、もともと天皇や貴族のために上演されていました。

舞楽は、様式化された動き、華やかな衣装、雅楽と呼ばれる伝統的な音楽が特徴です。

この形式の舞は、国内と海外の伝統が融合して発展してきました。

アジア大陸の慣習の影響を受けながら、最終的に日本独自の宮廷舞踊へと発展しました。

舞楽は、宮廷や神社仏閣の祭祀を通じて、1200 年以上にわたって受け継がれてきました。

これは、日本の最も古い舞台芸術の 1 つです。

現代の舞楽の上演は、遠い昔の貴族の娯楽を体験できるチャンスです。

蘭陵王は舞楽の題目の中で最も有名な舞です。

お祭りや大切なお祝い事など、縁起の良い機会に行われることが多いです。

蘭陵王は、聡明で勇敢な中国の王子の物語です。

しかし、王子はあまりにも見目が良かったので、軍の司令官として真剣には認めてもらえませんでした。

彼は恐ろしい仮面をかぶって軍隊を鼓舞し、敵を威嚇し、軍隊を勝利に導きます。

この伝説は、中国の北斉王朝の有名な将軍である高長恭（541 年～573 年）の功績に基づいていると言われています。

舞手の仮面は、頭頂部に龍を頂きいています。ひもにぶら下がったあごの部分が仮面の荒々しい表情を引き立てます。

精巧な衣装にも、さらに龍が刺繍されています。

舞手は、戦いの中で兵士を指揮することを象徴するために、バトンのような道具を振ります。

太鼓と伝統的な管楽器を備え、宮廷衣装と烏帽子という帽子を着用した少人数の楽師の集団が、この舞の伴奏をしています。

吊るされた大きな太鼓が釣太鼓^{つりだいこ}、小さい樽のような形の太鼓が鞆鼓^{かっこ}です。

管楽器には、笙^{しょう}（マウス・オルガン）、オーボエに似た簞簞^{ひちりき}、龍笛^{りゅうてき}という横笛などがあります。

演者の後ろにある伝統的な黒と赤の幕には織田^{おだ}家の家紋が施されています。

この家紋は、宮廷芸術を支えた強力な武将であった織田信長^{おだのぶなが}（1534 年～1582 年）への賛辞と考えられています。

舞の最後に来ると、舞手は劇的な勝利のポーズをとります。